味の素食の文化センターと人間文化研究機構は、食の文化に関するシンポジウムを2016年から連携して企画・開催してきました。
本年のシンポジウムは「コーヒー」をテーマに、その多様な文化的・社会的側面について考える機会とします。

コーヒーは、日常の飲み物として世界中で親しまれています。一方で、生産地の気候や土壌によって、その栽培や加工のあり方、焙煎の方法、飲み方に至るまで、さまざまに異なります。また、コーヒーの味覚や風味をめぐる表現、儀礼や習慣には、その土地の歴史や暮らしが色濃く反映されています。

講演では、エチオピアやコロンビアなど代表的な生産地を取り上げ、栽培や流通の最新事情、現地の業者とのやり取りにおける工夫や苦労を紹介します。さらに、エチオピアのおもてなし文化を象徴する「コーヒーセレモニー」のデモンストレーションを行い、この日常的な儀式に関わるマナーやコミュニケーションの背景について解説します。

後半のディスカッションでは、登壇者が一堂に会し、コーヒーに関わる多様な文化的営み、そしてそれらの変化と継承について語り合います。

本シンポジウムは、コーヒーの流通・焙煎・販売に携わる専門家の視点から、コーヒー文化を通して世界の風土や人々の暮らし、文化のつながりについて思いを巡らせる機会としたいと考えています。私たちの日常に深く根ざした身近な飲み物であるコーヒーの背後に広がる文化の多様性に目を向け、その魅力と課題を共有する場となることを期待しています。

コーヒー文化の現在地

多様性と未来

登壇者プロフィール

小山（おやま） 伸二（しんじ）

●書肆梓 代表

食文化研究およびコーヒー文化研究。詩人。クラウド・ナイン・コーヒー代表。食生活ジャーナリストの会・副代表幹事。日本コーヒー文化学会・常任理事。辻調理師専門学校・非常勤講師。総合地球環境学研究所「Sustai-N-able（SusN）プロジェクト」メンバー。
主な著書に『きみの砦から世界は』（思潮社）、『月の山』『コーヒーについてぼくと詩が語ること』『どうしてぼくたちは哲学するのだろか。』『雲の時代』『さかまく髪のライオンになって』（書肆梓）、共著に『専門家が語る! コーヒーとっておきの話』（旭屋書店）など。

上吉原（かみよしわら） 和典（かずのり）

●アタカ通商株式会社 取締役

2000年に木材業界からコーヒー業界へ転職。ジャマイカブルーマウンテンをはじめ、世界中のコーヒー産地からコーヒー豆の買付を行っている。ブラジルやコロンビアなどのメジャーな産地よりも、希少性の高いレアな産地や品種に注目し、国内外へ紹介している。日本コーヒー文化学会・常任理事。

川瀬（かわせ） 慈（いつし）

●国立民族学博物館 教授

専門は映像人類学。エチオピアの吟遊詩人の研究に基づき、人類学・映画・詩・アートの交点から人文学における新たな語りの地平を探求。主著に『ストリートの精霊たち』（世界思想社、2018年）、『エチオピア高原の吟遊詩人 うたに生きる者たち』（音楽之友社、2020年）、『見晴らしのよい時間』（2024年）、『エチオジャズへの蛇行』（音楽之友社、2024年）。

藤波（ふじなみ） 奈穂子（なおこ）

●株式会社 lohas beans コーヒー事業部
生豆購買&営業マネージャー

大学卒業後、青果物や加工食品等の食品輸入事務に10余年従事。2017年よりlohas beans社にてコーヒー生豆の輸入調達から営業、卸しまで一気通貫に行う。コロンビアには年1～2回、収穫時期に訪問し現地の最新状況やコーヒー事情を確認。良質な日常向けコーヒーから最先端のユニークなコーヒーまで幅広く買い付ける。

申込はこちらから

https://ws.formzu.net/dist/S65134661/

受付開始
2026年1月13日（火）10：00～

申込締切
2026年2月11日（水）17：00

定員になり次第終了します。

申込はこちらから

アクセス

- ●JR京浜東北線 田町駅 東口 徒歩1分
- ●JR山手線 田町駅 東口 徒歩1分
- ●都営浅草線 三田駅 A4 徒歩5分
- ●都営三田線 三田駅 A4 徒歩5分

主 催：公益財団法人 味の素食の文化センター／大学共同利用機関法人 人間文化研究機構　協力：アデイアベバ・エチオピア協会